

岩手県釜石市大槌町でボランティア

日本共産党市議団
と市民有志で

500kgを超す米と多額の募金のご協力、ありがとうございました

5月11～13日、12～14日のそれぞれ3日間、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県釜石市と大槌町の仮設住宅で、被災者支援のボランティア活動が行われました。

日本共産党上越地区委員会と呼びかけにこたえ、日本共産党上越市議団の平良木議員を班長とするグループと上野議員を班長とするグループが市民とともに行ったものです。

それにあたり、市民の皆さんから500kgを超す米と、多額の募金を寄せていただきました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

当日は、事前に現地に送った米を小袋にパック

し、仮設住宅にお住まいの200世帯以上に届けました。また、仮設住宅住民から、暮らしの要望などを聞き取る活動も行いました。

米を受け取った住民の皆さんからは、「震災から2年たったが、見通しもてないのが一番つらい」「仮設暮らしも3年目だ、ご近所がぼつりぼつりといなくなり、取り残された感じがする」「一応、高台移転が決まったが、話が進まない。いつになることやら」などの声が出されました。また、「こうしてずっときてくれるのは共産党だけだ」というお話もありました。

被災地支援2度目の平良木議員は、「津波の来襲

はともかく、人災とも言える避難体制の不備や原発事故は二度と繰り返させないことが大事」、7度目の上野議員は、「瓦礫はある程度片付いているが土地利用計画も決まらない、家を建てる余力も失っているなど復興と生活再建はまだ遠い先に感じた」と話しました。

また、他の参加者も「『あなたがきてくれて元気をもらえた』といわれたが、こちらがもらった」「土台だけ残っているとこから逃げた人がどう暮らしているか、忘れられてはいけない。被災者全員が、生活の基盤ができてやっつけていけるようになるまで支えていくことが大事」と語っていました。

つながろうフクシマ！ 原発再稼働を許すな 「さよなら原発上越集会」開催へ

6月29日(土)午後1時30分から、リージョンプラザ上越コンサートホールを会場に「つながろうフクシマ！……柏崎刈羽原発の再稼働をゆるさない……さよなら原発上越集会」が開かれることが決まりました。

これは、日本共産党上越地区委員会(上野公悦委員長)と社民党上越地域協議会(本城文夫代表)、上越地区労働組合総連合(布施辰夫議長)、上越地区平和環境労働組合会議(牧田正樹議長)の呼びかけで準備会(下の写真)が開かれ、参加者(市民団体など17団体、1個人)の全員一致で決まったものです。

準備会では、呼びかけ人を代表して、日本共産党上越地区委員長の上野公悦上越市議会議員が挨拶しました。

上野地区委員長は、「安倍自民・公明政権は、国民の圧倒的多くの声に反して、新たな原発安全神話とも言える新基準によって

原発を次々と再稼働させようとしている。福島原発事故は、原発と人類は共存できず、安全な故郷には原発はあってはならないことを明らかにした。再稼働は絶対許してはならない。従来の枠を超えて、幅広い個人団体が集まって『原発はいらない、再稼働は許さない』の声を大きく発信していこう」と訴えました。

6月29日の集会は、実行委員会方式で行われることが決まっています。集会の内容は、今後の実行委員会が決まりますが、今のところ、次の案が出されています。

**集会：文化行事などのオープニング
福島からの報告
柏崎刈羽原発差止め訴訟原告団からの「訴訟報告」**

集会後：市内パレード(デモ行進)

自民党が、この夏の参議院選挙の公約として「原発再稼働」を明記することや、外国に原発を輸出することを決めるなど、国民世論に反する暴挙を行っている中、集会成功は脱原発運動の大きな力になります。

たくさんの市民・団体の参加で集会を大成功させ「原発はいらない」の声を上越から大きく発信していこうではありませんか。

なお、集会を成功させるには多額の資金も必要です。各種の団体、個人から募金を募ろうということになっています。積極的なご協力をお願いします。



日本共産党上越市議員団ニュース

No.364 2013年5月19日

連絡先
橋爪 法一 090-5392-1961 (吉川区代石)
上野 公悦 090-7260-9407 (頸城区中柳町)
平良木 哲也 090-1808-6919 (上中田)

生活相談はお気軽に！

上越市議団は市民の皆さん方からの生活相談をお受けしています。市政への要望や暮らし・福祉・子育て・教育問題など何でもご相談ください。プライバシーを厳守して対応します。左記のそれぞれの連絡先に、お気軽にご連絡ください。

